

広島ひろおがの腰痛地蔵こしいたじぞう

むかし、奈良ならの広島町ひろおがちょうに普光寺ふこうじというお寺がありました。その六体地蔵むくたいじぞうさまは、腰痛地蔵こしいたと呼ばれていました。お参りまいすると腰痛なほが治るといって、昔からたくさんの方がお参りに行ったそうです。

あるとき、ひとりのおばあさんが、巾着きんちやくに白いお米を少し入れて、杖つえをついてお参りに行きました。そして、お米をお供そなえして、

「どうぞ、治してください」といって、拝おがみしました。毎日毎日行っっては拝みしました。でも、腰痛はよくなりません。

とうとうある日のこと、おばあさんは、

「私は腰も痛いし、生きていても用はない。早くお迎えむかにきてください」といって拝みました。

すると、六体地蔵さまがあらわれて、

「わかった。さっそく明日迎えにきてやる」とおっしゃいました。おばあさんは、びっくりして、

「明日のこんどのそのこんどで結構けつこうです」といいました。すると六体地蔵さんは、

「わかった。明日のこんどのそのこんどに迎えにきてやる」とおっしゃったのです。おばあさんは、あわてて、

「明日のこんどのそのこんど、もひとつこんどのそのこんど、またもひとつこんどのそのこんど」といって、繰り返し繰り返し拝んで、帰っていったそうです。

この六体地蔵さんは願いごとをよくきいてくれるそうです。

おしまい。



原話：『子どもと家庭のための奈良の民話』

共通語再話：村上郁